

研修協力施設での臨床研修プログラム

臨床研修病院の名称 国立国際医療研究センター病院

受入診療科 小児科

<p>(1) 研修の内容・目標</p>	<p>一般目標</p> <p>研修期間を通じて、小児を診療する際の基本的な事柄、すなわち病歴聴取、診察技法、検査・治療手技、薬物療法、患者指導などについての知識・技能・態度を身につける。また小児の一次救急および二次救急についても、基本的な知識と手技を身につける。</p> <p>個別目標</p> <p>1) 新生児期から思春期までの身体発育、運動発達、精神発達、言語発達、社会性の発達などの経過を理解し、正常小児とはどのようなようであるかを理解する。</p> <p>2) 小児あるいはその養育者から診療に必要な情報(病歴)を的確に聴取することができる。</p> <p>3) 新生児・乳児・幼児・学童以上などの各々の時期の小児について身体診察を行い、全身状態の評価に加え、バイタルサインの取得と各身体部位の所見や神経学的所見・皮膚所見・眼領域の所見・耳領域の所見などを含めた詳しい身体所見をとることができ、得られた情報を的確に診療録に記載できる。</p> <p>4) 患者に必要な検査を立案・実施し、検査結果についての評価を行い、診断や治療に反映させることができる。</p> <p>5) 代表的な小児の疾患についての定義・概念・原因・病態生理・疫学・臨床症状・経過・予後・診断基準・治療・予防などにつき説明できる。</p> <p>6) 小児で緊急を要する疾患(脱水症・気管支喘息発作・腸重積・クループ・細菌性腸炎・細菌性髄膜炎・けいれん・意識障害・心筋炎など)について病態・臨床症状、鑑別診断、治療方法などを説明できる。</p> <p>7) 小児に用いる一般的な薬剤(抗菌薬・鎮咳薬・止痢薬・解熱薬・抗けいれん薬・予防接種など)の薬用量・投与方法などの知識を身につける。</p> <p>8) 小児をとりまく医学的・社会的・自然的な環境について理解する。</p> <p>9) 全ての医療スタッフとの協調を学び、医療を実践していく上での基本的な態度を習得する。</p> <p>10) 医療安全・感染防御・個人情報管理について学び、それらについての説明ができ、その態度を単独で実施できるようになる。</p>
<p>(2) 経験できる疾患</p>	<p>子ども特有の疾患(感染症・けいれん・気管支喘息・悪性腫瘍・新生児疾患・低出生体重児・早産時・脳炎脳症・川崎病・心筋炎・腎疾患・精神神経疾患・発達障害・救急疾患など)の診断・治療を経験する。</p>

<p>(3) 経験できる手技・検査</p>	<p>診断・治療に必要な手技を経験（実施あるいは見学）する。すなわち、小児（様々な年齢）に対する、診察手技と、検査手技である。検査手技には、採血、輸液ルート確保、尿道カテーテル使用による採尿、各種細菌培養検査、髄液検査、骨髄検査、座薬などの肛門内挿入、画像検査などの際の鎮静などである。</p>
<p>(4) 1日もしくは1週間の業務の流れ</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 月～金曜日の8時30分～9時 病棟グループミーティング。その後病棟のグループ回診を毎日行う。 2. カンファランス： <ul style="list-style-type: none"> 月～金曜の12時30分～13時30分：6東カンファレンスルームあるいはウェブシステムで新規入院患者及び退院患者の症例検討を行う。 毎金曜13時30分～14時：臨床症例検討会（CC） 画像診断カンファランス・感染症カンファレンス：放射線科あるいは国際感染症センターと合同で隔月～数か月に1回 3. 臨床研修医研修修了発表会：研修修了時に各自勉強したことを15分で発表する。（最終金曜日） 4. 学会予演会・学会研修報告会：学会に参加する場合には予行と参加者によるトピックス解説をする。 5. 血液腫瘍疾患カンファレンス：毎週木曜日13時30分～14時30分 6. その他の勉強会：小児救急セミナー・東京医科大小児科とのカンファレンス・東京女子医科大小児科とのカンファレンス・東京大小児外科とのカンファレンス・順天堂大小児外科とのカンファレンスなど
<p>(5) 研修指導者名</p>	<p>七野 浩之（教育指導責任者）平成元年 山形大 小児科専門医・指導医、血液専門医・指導医、小児血液・がん専門医・指導医、癌治療認定医</p> <p>五石 圭司 平成5年東京大 小児科専門医・指導医、周産期専門医（新生児）指導医</p> <p>水上 愛弓 平成5年 東京女子医科大 小児科専門医・指導医、小児循環器専門医</p> <p>望月 慎史 平成7年 東京医科大学 小児科専門医・指導医、血液専門医・指導医、造血細胞移植認定医、</p> <p>瓜生 英子 平成12年 富山医科薬科大 小児科専門医・指導医、血液専門医</p> <p>山中 純子 平成12年 岩手医大 小児科専門医・指導医、血液専門医、感染症専門医</p> <p>赤松 智久 平成15年 東京大学 小児科専門医、周産期専門医（新生児）</p> <p>関 純子 平成15年 自治医科大学 小児科専門医 周産期専門医（新生児）</p> <p>田中 瑞恵 平成16年 鹿児島大 小児科専門医・指導医、血液専門医</p> <p>兼重 昌夫 平成17年 北海道大 小児科専門医、臨床遺伝専門医、周産期専門医（新生児）</p> <p>ほか</p>

<p>(6) その他、特記事項</p>	<ol style="list-style-type: none">1. 臨床研修医—レジデント—フェロー—常勤医の体制でグループ診療を行い、常時 10 名程度の入院患者を受け持つ。NICU 研修は 1 日行う。2. 救急外来における一次および二次救急診療を行い、救急患者の対応を学ぶ。3. 病棟受け持ち患者に対するコールを受けて、原則として最初に対応する。そのつど必ず指導医と相談し、方針を検討する。緊急時には指導医とともに対応に当たる。4. それぞれの受け持ち患者の病態を理解し、保護者からの病歴聴取（生育歴・家族歴・予防接種歴などを含む）や身体診察を行う。特に乳幼児の場合には指導医とともにいき、診察の技能を修得する。5. 指導医の指導のもとに、外来での採血、点滴、浣腸、吸入などの処置を実際に担当する。採血および輸液路の確保については指導医のもとで行えるようになる。6. 小児における臨床検査を指導医とともに立案し、その結果(血液・尿検査・細菌学的検査・レントゲン・超音波検査・心電図検査・脳波検査など)の評価を行い、診断や治療に反映させるかを指導医から学ぶ。7. 毎日行われる症例カンファレンスにおいて新規入院患者のプレゼンテーションを行う。プレゼンテーション方法・技術について指導医より研修する。8. 小児を取り巻く種々の社会的背景や育児・生育上の問題点などにも関心を持ち、指導医とともに解決方法や社会的資源の活用方法などを考える。
---------------------	---